

高大接続改革における2つの新テストに見る

これからの高校教育で

育むべき力と

求められる指導

2015年12月、そして16年2月に、高大接続システム改革会議において

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の問題イメージ例が、

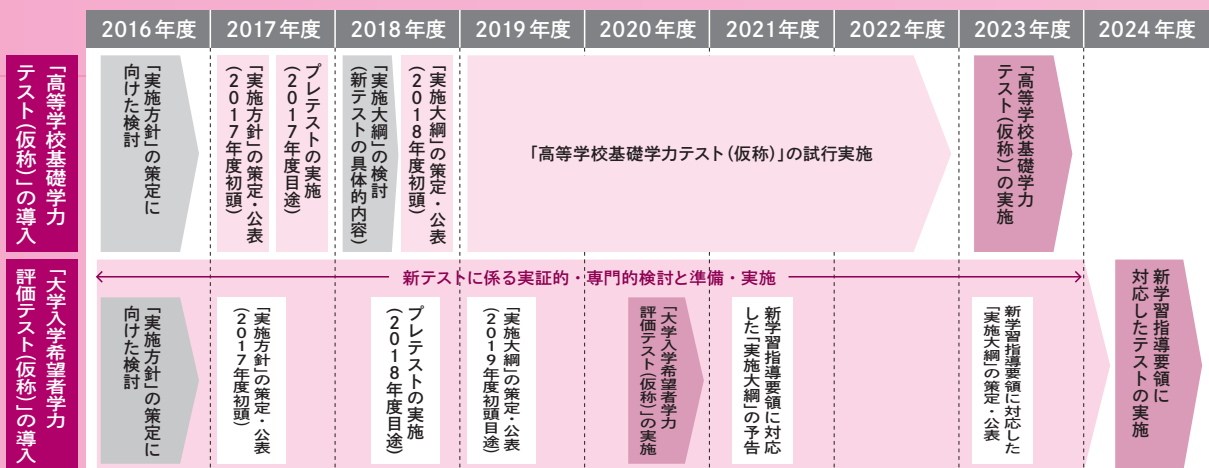
16年3月には、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の問題作成イメージの例が公表された。

それぞれのテストでは、どのような力を評価・測定しようとしているのか。

そして、そのような力を生徒に育むためには、どのような指導が求められるのか。

現場の教師と進研模試の教科編集者の分析から考える。

2つの新テストの導入・実施スケジュール



*高大接続システム改革会議「最終報告」別添資料2（2016年3月）を基に編集部で作成

本号のテーマ

2つの新テストの位置づけと、それぞれのテストで
求められる力、及びその育成に必要な指導のあり方を考える

位置づけ

高大接続システム改革会議「最終報告」の読み解きより

現状把握【P.4~5】

- 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は高校教育改革、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」は大学入学者選抜改革の中に位置づけられる。すなわち、2つの新テストは、高校教育改革、大学教育改革、大学入学者選抜改革の3つから成る高大接続システム改革の一部にすぎない。
- 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は、高校の基礎学力の定着度合いを把握することがねらいであり、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」は、知識・技能を十分有しているかも見つつ、思考力・判断力・表現力を中心に測定する。
- 2つの新テストは現段階では見通せない点も少なくないが、どのようなテストになったとしても、「学力の3要素」に沿って、これからの時代に必要とされる資質・能力を育成し、高校教育を大学教育や社会に接続することが求められる。

求められる力と指導のあり方

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の問題イメージ例の分析より

分析【P.6~21】

- 国語**○複数の情報を基に推論しながら考えをまとめ、状況に応じて適切に表現する力
- 数学**○問題文や図形から必要な情報を読み取り、知識や技能を用いて表現する力
- 英語**○「聞く」「読む」を通して得た知識を活用した、「話す」「書く」の発信力
- 物理**○必要なデータを抽出して関係を見いだす力や仮説を立てる力
- 世界史**○資料の活用を通じ、歴史事象について論理的に捉える力

上記の力を育むために必要な指導に共通する、
アクティブ・ラーニング(AL)の視点を学校全体で共有する



「ALの本質を理解する場として
全校体制での研修を」
東京都立西高校 校長 宮本久也



「理論や経験に裏づけされた
研修の枠組みを構築する」
岡山県立和気開谷高校 校長 香山真一

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の問題作成イメージの例の分析より

分析【P.22~29】

- 国語**○国語の基本的な力と、状況・目的に応じて表現の工夫や課題解決の説明を考える力
- 数学**○生活と関連した問題、高校数学の基礎事項、義務教育領域に対応できる力
- 英語**○オーセンティックな題材への対応力



「基礎学力の定着を図る
PDCAサイクルの一環としての活用を」
文部科学省 初等中等教育局 高校教育改革PT 総括リーダー 今井裕一